

## 田中素香『ユーロ 危機の中の統一通貨』岩波書店、2010 年

### 1. 目次

{見出し、すべて} 太字

中央揃え、フォント選択、  
フォントサイズ大

インデント

はしがき

I 章：ユーロの歩み —1999～2010 年—

II 章：ユーロ導入までの道のり —1970 年～1998 年—

III 章：ユーロはどういう仕組みなのか

IV 章：世界金融危機とユーロ

V 章：ギリシャ危機とユーロ存亡の危機 —2010 年以降—

終章：ユーロ再考 —課題と展望—

あとがき

### 2. 著者紹介

インデント

田中 素香（たなか そこう）

1945 年 福岡県生まれ

1971 年 九州大学大学院経済学研究科修士課程修了。現職（2010 年現在）：中央大学  
経済学部教授、経済学博士。専攻：ヨーロッパ経済論、統合経済論

著書：

箇条書き

- 『世界経済・金融危機とヨーロッパ』（編著、勁草書房、2010 年）
- 『検証・金融危機と世界経済—危機後の課題と展望』（共編著、勁草書房、2010 年）
- 『拡大するユーロ経済圏—その強さとひずみを検証する』（日本経済新聞出版社、2007 年）
- 『ユーロ その衝撃とゆくえ』（岩波新書、2002 年）
- ほかに多数。

### 3. 選定理由

段落番号

1. ユーロの仕組みを明確にする。
2. ユーロと金融危機との関わりを見直す。
3. ECB（ヨーロッパ中央銀行）の役割を知る。
4. ユーロが崩壊しない理由を議論する。
5. リーマンショックと EU・ユーロとの関わり見直す。
6. ギリシャ危機の始まりを見直す。
7. ユーロ離脱とは何か？また、その可能性を考察する。
8. 「リージョナル・インバランス」とは何か知る。
9. ユーロ危機に何をすべきかを議論する。
10. ギリシャ危機以降の加盟国・ECB・IMF の動向を明確にする。
11. ユーロの\*\*\*仕組みを明確にする。
12. ユーロと\*\*\*\*金融危機との関わりを見直す。
13. ECB（ヨーロッパ中央銀行）の\*\*\*\*役割を知る。

文書全体

40 字×40 行  
上下左右余白 = 25mm